

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870501636
法人名	新居浜医療福祉生活協同組合
事業所名	グループホーム あおぞら
所在地	新居浜市小松原町8-68
自己評価作成日	平成29年2月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成29年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりが自分の思う生活を過ごして頂けるように環境の整備に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●前回の外部評価結果を踏まえて、今年度は外に出ること、閉じこもらない事に力を入れて取り組んだ。季節の花を見に行ったり、利用者全員でスーパーで外食をする等の支援に取り組んだ。全員でマイントピア別子へ出かけた際には、家族と温泉を楽しんだ利用者もあった。 ●家族の来訪が多く、又、家族会は、餅つきや外出行事と合わせて開催しており、毎回全員の参加がある。家族からも外出先の希望が出ている。 ●職員が参加しやすいように、意見交換会を勤務時間内に行うよう変更している。法人からも参加がある。会議の場で言いにくいことは、事前に管理者が聞き取り、用紙でも提出できるようにしている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム あおぞら

(ユニット名) あおぞら

記入者(管理者)

氏 名 山内 敏幸

評価完了日 平成29年 2月 3日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			事務所に掲示し、理念の共有と実践を心掛けている。 パンフレットにも掲示し、公開している。	
			(外部評価)	
			玄関を入った正面に[～あおぞら介護理念～]の5項目を額 に入れて掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			運営推進会議に来て頂いたり、利用者と散歩のときに挨拶 やお話しをている。	
			(外部評価)	
			地域からマンドリン＆オカリナ演奏とリハビリ体操やハーモニ カ演奏、お手玉の会のボランティアの訪問がある。散歩時 には、近所の方と「今日はお天気がいいですね」と声を掛け 合ったりしている。	管理者は今後、地域の中学校の運動会を見学に行きたいと 話していた。運営推進会議に参加している地域メンバーを 通じて、今後さらに、地域とのつながりを広げていってほ しい。事業所や利用者への理解や協力者を増やしていってほ しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			地域の方と運営推進会議に来て頂いた時に認知症の方の 事を話している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し 合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活 かしている	(自己評価)	
			運営推進会議に利用者や家族、地域の方に参加して頂き、 意見交換している。	
			(外部評価)	
			会議には、利用者や地域の方や市の担当者の参加がある。 会議に笑いヨガや演奏会を併せて行うこともあり、地域の方 も誘っている。参加者からは「利用者の方が元気でびっくりし た」「歌詞を覚えていらして驚きました」等の感想があった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業 所の実情やケアサービスの取組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			運営推進会議に来て頂いている。 困難時は相談し、指導を受け、協力関係を築くよう努めてい る。	
			(外部評価)	
			毎年、中・高校生のワークキャンプの受入を行っている。2ヶ 月毎に介護相談員の訪問があり、お話することが好きな利用 者は来訪を楽しみにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における 禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し ており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない ケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			身体拘束のない介護を目指し、日々取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			身体拘束ゼロのポスターを廊下の目につく位置に掲示して いる。法人研修受講者が事業所内で報告を行っている。調 査訪問日は、玄関の自動ドアが故障していたため、手動で 開けるようになっていた。2階の階段降り口にはガードを設置 している。又、エレベーターは止めてあった。さらに、利用者 が安全に、又、安心して暮らせる環境作りについて時々点検 し話し合ってみてほしい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	
			虐待防止のケアを徹底している。 事業所内で虐待を見逃さないよう、職員の連携に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	
			権利擁護の関する研修に参加している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	
			具体的に説明し、納得頂いた上、契約を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	
			家族会や運営推進会議に利用者、家族、地域の方々に参加して頂き、意見交換を行い、運営に反映させている。	
			(外部評価)	
			家族の来訪が多く、又、家族会は、餅つきや外出行事と合わせて開催しており、毎回全員の参加がある。家族からも外出先の希望が出ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			毎月、意見交換会という会議の場を設け、各職員の思っている事や考えを聞く時間を取っているが、全員の参加は難しく、少人数で行われる事もある。	
			(外部評価)	
			職員が参加しやすいように、意見交換会を勤務時間内に行うよう変更している。法人からも参加がある。会議の場で言いにくいことは、事前に管理者が聞き取り、用紙でも提出できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			給与は安定していても、賞与の面では不安定で年々下がっており、正職員から不満の声や士気低下になりつつある。その反面、有休消化など待遇良く充実している面もある。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			近くで行われている研修の一覧表等、各部署へ配布し、各管理者が職員へ声掛け、参加できるようにしてくれている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			他の施設への研修や他の施設の職員が集まり研修できる場所等があれば、その時の内容に応じた職員に参加してもらっている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			利用者、家族としっかりコミュニケーションを取り、少しでも不安を取り除いて安心し、充実した生活を送ってもらえるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前には現ケアマネージャー、そして家族や本人より、現状困っている事、要望など伺い、ホームの説明を十分行って、信頼関係を築くように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者や家族と話し合いや連絡を取って、今現在必要としている支援をつかむよう、他のサービス利用も考慮して努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者と職員も一緒になって作業や家事など行ったり、会話を深めていって、生活を共にしていく関係を築くよう努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者や家族と話し合い、それぞれの要望や思いを知り、利用者と家族の信頼関係を深めつつ、一緒に利用者を支えていくよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者が以前行ったことのある所にドライブしたり、馴染んだお祭り見学やビデオを見たり、昔からの知り合いの方に来て頂いたり、昔からの趣味をしてもらったりして努めている。 (外部評価) 以前勤めていた会社や自宅付近をドライブしたり、秋祭りで賑わう馴染みの神社に初詣に行ったりできるよう支援している。家族によっては、利用者の受診の際を捉えて、ドライブや食事して帰る等の支援をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立 せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよ うな支援に努めている	(自己評価)	
			利用者同士で過ごす時間を作り、お互いが助け合える環境 づくりを心掛けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの 関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・ 家族の経過をフォローし、相談や支援に努めて いる	(自己評価)	
			退所してからも、家族や利用者が安心して頂けるよう、情報 提供し、相談に応じている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把 握に努めている。困難な場合は、本人本位に検 討している	(自己評価)	
			利用者1人ひとりの要望を聞き、家族の要望にも添えるよう努 めている。	
			(外部評価)	
			入居前から歩くことが好きだった利用者は、調査訪問当日も 好きな時間に廊下を歩いていた。更衣時の洋服選びや外 食、誕生日のメニューは自分で選べるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活 環境、これまでのサービス利用の経過等の把握 に努めている	(自己評価)	
			利用者、家族の生活歴等の聞き取りを行い、出来る限り、馴染 みの生活環境に近づけるよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有す る力等の現状の把握に努めている	(自己評価)	
			各利用者の担当を受け持ち制とし、利用者に関わりを持つよ うにする事で、サービスの質の向上を図っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			定期的にモニタリングを行い、利用者、家族からの要望も伺った上で、職員間で話し合い、それぞれの思いや考えを大切にして、プランを更新している。	
			(外部評価)	
			利用者個々の担当職員と介護計画作成者が中心になり、本人と家族の要望を聞きながら介護計画を立てている。基本3ヶ月ごとの見直しとなっており、見直し時も本人、家族の希望を聞くようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			日々の記録を個人ごとに行い、定期的にプランの達成状況を記入している。 それを元に職員間で話し合い、プランの見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			家族会や外出レクリエーション、季節の行事など、職員間で話し合いを重ねて実行し、色々な取り組みが出来るよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			運営推進会議を定期的に行い、地域の方に参加して頂いたり、定期的にボランティアの方に来て頂き、日々楽しめるよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			利用者、家族の意志にそって、かかりつけ医との関係を継続出来る。受診時は可能な限り、家族に付き添って頂き、利用者の病気を理解してもらうようしている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(外部評価)	
			受診は、家族が付き添って支援している。医療生協から週1回往診があり、必要時には歯科医の訪問診療も受けられる。	
32		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			利用者の日常生活での変化や気づきについて、情報交換を密にしている。 看護師は受診時の医師の説明や服薬について、全職員がわかるよう文書化し、介護記録に記載している。	
33	12	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			看護師は入院時に利用者に付き添い、情報提供をしている。 入院中は利用者との関係を断たないよう、時々面会に行く。また退院時は、家族と一緒に医師や看護師による退院指導を受けている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			入院時より重度化や終末期における利用者、家族の方針を伺っている。 重度化した場合は、関係する医療や訪問看護の利用やホームが出来る等について説明し、話し合っている。必要時は関係するチームとカンファレンスを行う等している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(外部評価)	
			終末期の支援については、入居時と利用者の状態に合わせて必要時に説明や話し合いを行っている。事業所からは、家族の協力を得て支援したい意向を話している。今年度は、2名の利用者の看取りを支援した事例がある。家族も事業所に泊まり、協力し合って看取った。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			急変時、家族の要望や搬送先の希望を聞いている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			避難訓練を実施したり、災害時の備蓄や連絡網の作成をしている。 避難場所は近くの中学校になっている。	
			(外部評価)	
			7月には、運営推進会議時に、消防署の協力を得て昼間の火災想定避難訓練を行った。利用者は、2階の非常口まで一時避難する訓練を行った。備蓄品は、携帯コンロと水・缶詰・カップラーメン等を数日間分準備している。	今後は、立地条件や建物の条件等を踏まえた訓練や夜間想定避難訓練、実際に避難場所まで行ってみる等、いざという時に備えた訓練を重ねてほしい。さらに、地域との協力体制作りに向けた取り組みをすすめてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			利用者のプライバシーを大切に、嫌な気持ちのない声掛けをしている。	
			(外部評価)	
			日当たりのよい廊下を歩いている利用者に、職員は「○○さん、暑くないですか？ 上着を脱ぎましょうか？」「お父さん、ほっぺがあかくなっているよ」と笑顔で声掛けして上着を預かっている様子が見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			利用者が外出先や外食の時に、食べたい物を決めて頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりの思いを大切に、希望にそえるように支援して いる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 服装はアドバイスしながら支援し、散髪は定期的に来て頂い ている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立の希望を聞き、一緒にお好み焼きを焼いたり、えびの殻 むき、もやしのヒゲ取りなど、出来る範囲のお手伝いをしてい る。 (外部評価) 業者からレシピと食材が届き、事業所で調理している。水・日 曜日の昼食は事業所で献立を考えて食事を作っている。茶 碗・湯のみは自分のものを使っている。昼食前には「あい うべ体操」を行っている。昼食時には職員1名が介助に当た るが、他職員は休憩を兼ねて別室でお弁当を食べている。 昼食後、職員は「歯磨きをしましょう」と声を掛け支援してい た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 一日の食事の摂取量を記録し、足りない人は好物を摂取し て頂くようにしている。 水分補給は牛乳、お茶、コーヒ等で対応。 困難な方には、トロミやゼリーで対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後、ケアをしながらチェックし、記録している。 歯科往診をお願いし、悪い状態がないよう対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者一人ひとりにしっかり声掛けをし、トイレ行って頂いている。 オムツの方は、交換の時間を決め、失敗のないよう支援している。 夜間は随時対応し、睡眠の妨げにならないよう支援している。	
			(外部評価) 時間を見てトイレに誘導することで、紙パンツから布パンツに状態が改善したような事例がある。居室の前には、二人に一つずつトイレがあり、おむつやパッドを使用していた利用者でも、トイレに行くことを支援して改善している事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 普段からバランスよく野菜や果物を取れている。それでも便秘の時は、かんげ剤で対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望通りには入浴できていないが、曜日を定め、午前中に2～3回/週に入浴している。	
			(外部評価) 現在、利用者個々に週2回程度入浴できるよう支援している。利用者からの要望等を聞き、誘う順番に気を付けている。風呂好きな方が多く、今後は、日曜日にも入浴できるようにして週3回支援する事を検討していた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとり休みたいときに自室にて自由に休んで頂いている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 今は看護師が服薬のセットを行っている。副作用他、介護日誌に閉じているので、読み参与している。服薬時は名前を確認して、一人ひとりに手渡しし、飲んでもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 洗濯たたみ、テーブル拭き、新聞折り等、勤んでされている。長椅子にて、お話ししたり、CDを聞かれたり、楽しく時間を過ごされている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 月に1回は利用者の希望を聞き、外出支援を行っている。気候の良い時は、近所の公園、河川敷等に散歩に出掛けている。 (外部評価) 前回の外部評価結果を踏まえて、今年度は外に出ること、閉じこもらない事に力を入れて取り組んだ。季節の花を見に行ったり、利用者全員でスーパーで外食をする等の支援に取り組んだ。全員でマイントピア別子へ出かけた際には、家族と温泉を楽しんだ利用者もあった。職員は、利用者が外に出ると活き活きた表情になると感じており、今後も外出の機会を増やしていきたいと話していた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の自己管理している方はいないが、外出支援で買物に行く時は自分で選んで、支払いを行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者が希望された時は、自由に子機を使用している。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関先は季節の花を、2階のベランダは季節の野菜を作り、共有スペースは適度な室温や照明に気をつけ、壁面は四季感が出るよう、利用者とする絵等を張り、廊下では歩行訓練や筋肉の維持等考え、長い手すりをつけており、広い窓やステンドグラスの採光も明るい雰囲気作りになっている。	
			(外部評価) 調査訪問当日は天気がよく、事業所の窓からシーツや布団を干していた。玄関には、プランターに桜草やパンジーを整備していた。居間の壁面には、利用者と職員で作った季節の花の作品があり、テーブルに水仙の花を生けていた。廊下に椅子を置き、当日は、利用者2名がひなたぼっこをしていた。窓から国領川河川敷が見渡せて、春には桜がよく見える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有室は、大中小のテーブルを配置し、テレビやCD、ビデオ独りでも何時でも自由に見られるようにし、雑誌や新聞もすぐ読めるよう設置している。 広い廊下には、外の景色を眺めたり、長椅子を置き、座って休まれたり、話し合いが出来るようになっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者が大切にしている品物は、家族と設置され、個性的な生活感あふれる部屋作りになっている。 クローゼットは季節外の寝具や衣類の収納が出来る。 快適に過ごせるように、毎朝各部屋、トイレ、廊下等を掃除して、整理整頓を心掛けている。	
			(外部評価) 居室には、テレビや使い慣れた椅子、ぬいぐるみ等がおいてあった。昼食後、居室にもどり、口紅を塗って出てきた利用者があった。ベッドに週刊誌を置いている方もいる。タンスの整理がしやすいように、家族が下着やズボン等と名前を書いているところもあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者個々の理解力等を把握して、その人らしい生活が送れるよう、声掛け対応をよくし、食事時の椅子の位置は同じ場所に、トイレ使用も自室の近く、決まった場所を利用している。	